

龍 声

東龍寺報

平成元年三月廿五日創刊

発行編集所 〒959-1502
新潟県南蒲原郡田上町
曹洞宗 東龍寺

電話 (0256)57-3395
FAX (0256)57-2174
E-mail: ryusei@ginzado.ne.jp

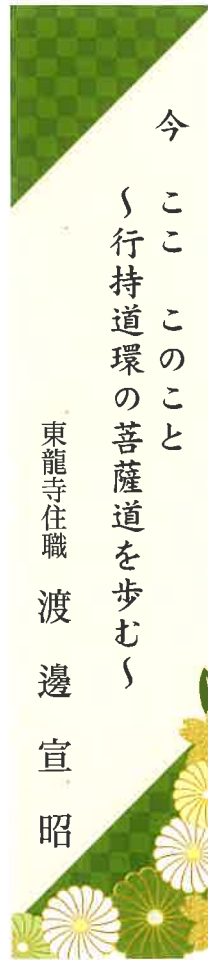


ホームページ
<http://www.ginzado.ne.jp/ryusei/>

今 ここ このこと

行持道環の菩薩道を歩む

東龍寺住職 渡邊宣昭



今、国の内外で、多くの困難と不安の中に私たちは置かれています。特に、国外では、ロシアによるウクライナ侵攻、国内においては、新型コロナウイルスの感染症流行が四年目を迎えて、収束に向かっているようですが、様々な歪みが出てきて、命を蔑ろにした犯罪が増えて来ております。

このような現況の中で、私たちはどのような生き方を心掛けて行けば良いのでしょうか。

私は、今年で住職になって、四十年目となりました。檀信徒の皆様や関係御寺院の御指導御協力のおかげと深く感謝申し上げます。特に、四十代中半からは、布教化の為に、曹洞宗管長猊下の命を受けて、全国を法話巡回させて頂いております。

十年程前、自分の生み出す法話に行き詰りを感じていた時、内館牧子さんのエッセイに記されていた言葉に心が動かされました。脚本家の橋田壽賀子さんが、後輩である内館さんが初めて脚本を手掛けるときに送ったたった一つのアドバイスでした。

「『出し惜しみしちゃダメよ』これは強烈だった。さらにおっしゃった。」

『半年間も続くドラマだから、ついついこの話は後に取っておこうとか、この展開はもう少ししてから使おうとか考えがちなの。でも、後のことは考えないで、どんどん投入するの。出し惜しみしない姿勢で向かえば、後で窮しても必ずまた開けるものよ』



3年ぶりに行われた第19回眼蔵会 7月8日夕方

意がわかりました。それは、戦時中に同世代の男性が出征して次々と命を落としていく現実を、ご覧になっていながら、たからだったので、明日の命の保証がないからこそ、証がないからこそ、今できる最高の務めを果たしていくことを信条とされたのです。

まさに、「今ここにこのこと」に徹した創作活動をされたからこそ、多くの方々の共感を得ることができたのだと思うのです。

これは、今の私たちの生き方にも当てはまるのではないのでしょうか。明日の保証のない命を私たちは生きています。だからこそ、今、自分の為すべきことは、何かを真剣に考えて、一時一時を生きていくことが肝要なのです。道元禪師は『正法眼蔵』「行持」の巻で

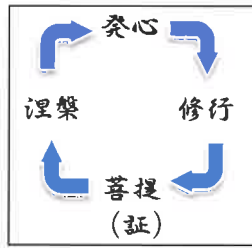
『佛祖の大道、かならず無上の行持あり、道環して断絶せず、発

私は、この言葉に背中を押されました。「そうだ。法話の教場で、今自分が、最も聴衆に訴えたい教えを後先を考えずに伝えよう」と気持ち新たに致しました。

そして、一昨年、橋田さんがお亡くなりになり、特集番組が放送された折、あの言葉の奥にある真

心・修行・菩提・涅槃、しばらくの間隙あらず、行持道環なり』とお示しです。

「お釈迦様をはじめとするお祖師様方の歩みには、この上ない行持（行い続けること）がある。それは、環のように尽きることがなく、発心（志をおこす）・修行（その思いを行っていく）・菩提（安らかな生き方に目覚める）・涅槃（心穏やかに過ごす）、休むことなく、発心し、輪のように常に怠りなく続けていくことが大切なのです」。



行持道環の図

つまり、行持道環の生き方とは、日々の為すべき事をその時その時、丁寧に行うことで、それが、心の安らぎが現れてくる菩薩道と言えるのです。次に示しました『つながりあっている世界』を日々の処し方の参考にして頂ければと存じます。

「今、ここ、このこと」に真心を込めて打ち込んで生きること、人生の幸せを見出してまいりましょう。

合 掌

つながりあっている世界

新潟県 東龍寺 渡 邊 宣 昭

私たちを取り巻くこの世の中は、益々混沌とした先の読めない状況になってきているように感じられます。このような時代だからこそ、私は「縁起の理」を説く仏教のものの考え方を振り所にするのが重要なのではないかと考えております。

『華嚴経』というお経の中に「すべての存在は、お互いに関わりあい助け合

いながら存在している」という縁起の理を巧みに表現した「因陀羅の網」という比喻があります。因陀羅とはフーテンの寅さんでも知られる「帝釈天」のことで、もともと帝釈天はバラモン教やヒンドゥー教などの神さまでしたが、仏教に



境内の紅梅、白梅 3月10日撮影

取り入れられ、仏法の守り神になりました。

この教えを私なりに解釈して、帝釈天が地球に大きな網をかけたと考えます。地球をすっぽり覆うほどの巨大な網が下りて、私たち一人ひとりにかかったと思ってください。

一つの網目の動きが周りのすべての網目に影響を与えていき、全

ての網目の動きが一つの網目にも影響を及ぼしてくるようになります。つまり、すべての人々や物は関わりあつて地球上に存在しているといえます。また、一つひとつの網目が集まって全体を作り上げている、つ

まり、一人ひとりの行動が周りの人々や物に影響を与え、ひいては地球全体に影響を及ぼしていくと考えるのです。

先日、雪の晴れ間に外へ出てみると、境内の紅白の梅の木々がつぼみを膨らませておりました。その時、私はふと思つたのです、「この梅の木は大地から栄養をもらつて今花を咲かそうとしている。同じように私たち人間は大地から育つたお米や野菜を頂いて生かされている。梅の木も私も大地とながつているのだ」と。そう思うと、一本の梅の木に対して、愛おしさを禁じえませんでした。

このようにつながりで物事を捉えるのが縁起というものです。そして、それを自覚することが智慧であり、そのことを自覚すると、他に対する慈しみの心が沸々と湧き上がってくるのです。一人ひとり小さな存在かもしれませんが、そんな思いを結集して明るい世の中を作っていきたいものです。

本原稿は、曹洞宗管長猥下より、発せられた令和五年度告諭に基づいて、特派布教師である東龍寺住職が作成を担当させて頂いた「聞法のしおり」です。宗務庁の許可を得て掲載致しました

晋山式をつとめて

加茂市 永明寺住職 久保尚之

令和四年五月二八日二九日、東龍寺渡邊宣昭老師を西堂にお迎えして晋山式を迎えました。

二八日は翌日を迎えるための法要が午後から行われ就寝。前夜祭のようなものでしょうか。

緊張しているのか準備で疲れているのか普段より早寝をして二九日の朝起きると外は信じられないほどの快晴でした。

思い返すと平成二八年に先代住職が突然遷化して、そこから準備を始め、令和三年に晋山式を迎える計画だったはずが、新型コロナの発生により延期せざるを得ず、気付けば先代が亡くなってから七年も経っていました。

延期前の令和三年四月の先住の命日に開催する予定であった晋山式と同時に日を合わせて先住七回忌も務める予定が延期になってしまったため、元々の予定日に身内のみで七回忌をつとめました。

その日はあいにくの曇り空で、ぼそっと叔父が「本当なら今日が本番だったね」と一言。

晋山式の日には晴れたら九割成功なんて言う人もいるので、「延期して結果オーライですね」「延期

したからスッキリ晴れませんでしたね」なんて冗談を言い返したのが、つい最近のことに思え、一年経っているとは思えないほどあつという間に令和四年の式を迎えたわけでありますから、本番当日の朝に起きた時は『延期して本当の結果オーライになったな』と感慨深いものもありました。

起きて朝課をつとめ、準備して安下処に向かう道中は早朝にもかかわらず日差しが暑く、道端にはちらほら檀家や見物に來た皆さんが。朝の挨拶をしながら安下所に着くとお経を上げ、衣を着替えていざ出発。

外には何人かのお稚児さんが衣装をまとい待つていてくれました。行列を組みお寺まで向かうわけですが、短い道中ちらほらだった檀家さんたちが、いつの間にか大勢いて「おめでとう」と言ってくれるわけです。

想像以上に多くの人たちが来てくれていて、ありがたさに涙腺は崩壊寸前ですが、この時点で泣いた方丈様の話を聞いたことがないので、私も涙をグツとこらえてお寺に向かいました。

お寺の前にも大勢の人が待つていてくれて嬉しかったな。

到着したらお寺での式が始まります。山門で法語を唱え行列と一緒に本堂まで行くと、そこから一気に法要が続きます。

お寺の各所で挨拶をすると、式の最大の山場である須弥壇に上つての問答になります。

ここまですると協力していただく

いた皆様や色々な事を思い出し、この日を迎えられた事が有難くて有難くて：もう涙腺は崩壊し、まともに喋れません。

それでも声を振り絞って法要をつとめ、少しの休憩に呼吸を調ええると、弟子の禅問答などまだ残っている法要も、なん

とか一気につとめあげることが出来ました。

最後に本堂前で来てくれた皆様と記念写真を撮ると一気に力も抜けホツとしました。

この後、本来であればお坊さんや檀家さんや来てくれた皆でお齋をするところではありますが、時節柄、残念ながらお齋が出来なかつた事が若干の心残りではあります。

ただ料理屋さんが尽力してくれたお陰で豪華な折を用意していただけたのには感謝です。

そんなコロナ禍での晋山式ではありましたが、檀家さんをはじめ、多くの方の協力で無事つとめられたことは生涯の大切な思い出であります。

そんな多くの皆様がこの場を借りて感謝を申し上げる次第です。

合掌

住職より一言

久保尚之師におかれましては、新型コロナウイルスス禍の中、一年延期しての晋山結制を無事円成されましたこと、誠に御出度うございました。

先々代様からのご縁で、西堂という重要なお役をつとめさせて頂き、感謝申し上げます。

一層の飛躍をお祈りしています。



山門へ晋む新命住職（筆者）5月29日

東龍寺眼蔵会に参加して

東京都 東國寺 富田雅実

令和四年七月七日〜八日に行われた第十九回東龍寺さま眼蔵会に参加させていただきました。

この度の眼蔵会は、令和元年以来の三年ぶりの開催となりました。両日とも晴天に恵まれて夏らしい気候のもと修行をさせていただきました。

私は、前回に引き続いての二回目の参加でした。以前は、二泊三日で東龍寺さま山内での宿泊で修行をさせていただきましたが、今回はコロナウイルスへの対策として参加者は周辺のホテルでの宿泊やご自宅からの通いとなりました。例年との大きな違いは、宿泊だけではありませんでした。以前は僧堂で坐禅をしなが



講義の様子 7月8日午前

「僧堂飯台」を修行しておりました。檀信徒の方々と並び一般参



眼蔵会終えて、養成所研修課程諸兄と筆者前列左端 7月8日夕方

加の方は、坐禅をしながら、仏具を慣れない手つきで扱いながら食事をし、我々僧侶は食事を給仕する「浄人」を勤めさせていただきました。さながら御本山永平寺で修行をさせていただいているかのような時間を過ごさせていただけました。この度は手配してくださったお弁当での食事でした。



布教師養成所、法話の会を終えて 筆者右から2番目 2月2日

と行持の巻・下巻からの一節を紹介されました。「暑さ厳しきなかでも、暑さには負けず、仏の道を歩んでください」という道元禪師さまからのエールです。精進を重ねてまいりまし

さんの方々が集まりました。今年も駒澤大学教授・角田泰隆先生より二日間にあたり正法眼蔵・行持の巻(下巻)の提唱をいただきました。達磨大師章を中心に話を進められ、先般遷化された愛媛県瑞應寺専門僧堂・前堂長権崎通元老師との思い出に触れられるなど大変印象深いお話の数々でありました。

二日目の最後の提唱後に、渡邊宣昭老師より参加者へ「暑熱をおずることなかれ、暑熱いまだ人をやぶらず、暑熱いまだ道をやぶらず。不修よく人をやぶり、道をやぶる。」

よう。」と眼蔵会の結びの言葉として締めくくられました。渡邊老師のお言葉のように眼蔵会も法要も参加者全員の熱気に溢れ、とても充実した二日間でした。末筆ではありますが、東龍寺さま・御家族さまをはじめ新潟県内寺院老宗師におかれましては、コロナウイルスの対策等開催するにあたり御苦労が多かったことと思ひます。たくさんのお心遣いを頂戴致しましたこと感謝申し上げます。

住職より一言

私が曹洞宗布教師養成所の講師を平成三十年より、つとめる中で、富田師は、布教に取り組む姿勢が素晴らしい研修生でした。

そして、東龍寺眼蔵会に令和元年、今回と参加されました。

令和二年は養成所中止、三年は私が主任講師をつとめ、師は研修生の中から選抜された研修課程に入り、より深く布教研鑽を積み、令和四年は、私が研修課程専任講師となり、師を含め六名を指導させていただきました。

眼蔵会に、六名全員が参加し、研鑽を積んでくれたことは無上の喜びです。各位の益々の御精進を願っています。

第十九回眼蔵会に参加して

愛媛県大洲市 梶原 恵都子

弟、山本悟由が住職をしていた定林寺は、松山空港から車で南へ一時間半ばかり走った肱(ひじ)川沿いの山に囲まれた過疎地の小さな寺です。

私は、悟由が二〇一〇年に五十二歳で遷化した後、二〇一九年に新任職を迎えるまで定林寺の維持管理をしておりました。

二〇一九年六月から嫁ぎ先の大洲市春賀に戻りました。これも、夫の協力のお陰と感謝しております。

二〇一一年四月に悟由の一周忌を終え、一安心していた六月二十一日、懇意にしていた和尚様方が、突然、東龍寺様を定林寺へと御案内して下さったのです。そして、悟由の仏前にお参りしていただいたのが、東龍寺様との初対面でした。全く予期せぬ出来事で、有難くて、十一年前の当時から昨日の様に思い出されます。

その後、何かと気遣って下さり、寺報を送って頂いておりました。一度、お礼にお伺い出来

ればと夢のような事を考えておりましたが、この度やっと念願が叶いました。

今年の四月に東龍寺様から届いた寺報に、眼蔵会の案内が入っていました。私は以前から『正法眼蔵』の講義を受けたかと思っておりました。参加したい想いを夫と娘に話すと「今」が好機だから、是非参加するようにと、勧めてくれ、夫と二人で一念発起して、新渇へ行く運びとなった次第です。

研修の「行持」の巻の内容は、要約出来兼ねますが、達磨大師について、難解ではありましたが、具体的に学ぶことが出来ました。



午前7時7日の講義を終えて、昼食前の坐禅

東龍寺様を送って下さった「コロナを越えて」の著書の中に、「行説一如く行持道環の菩薩行を旨として」と題して、行持についてとても理解し易く日常生活そのも



梶原夫妻と眼蔵会を終えて、筆者右から2番目 7月8日夕方

のであることをお示し下さっており、有難く思います。「発心・修行・菩提・涅槃を繰り返し繰り返ししていく」ということが、とても大切な歩みなのだ。同じことの繰り返しでなく、日々新たな行持なのだということも教えて頂きました。生きていく事そのものが修行であり、気負うことなく続けていく事の喜びが本物であるようにお願い、行持の奥深さを実感致しました。

私は、眼蔵会に参加するに当たり、何の知識も準備もなく不安でしたが、とても貴重な体験をさせて頂きました。限られた時間の中でしたが、緊張感を持ちながらも、すべてが新鮮で、静寂な時空の中に身をゆだねる事ができ、充実感を味わい心が満たされました。

コロナ禍の中で、大きな行持を開催して下さいました陰には大変な御心労が御座います。御礼を申し上げます。

大変御多様な時期にお伺いしましたのに、方丈様はじめ、大奥様、若奥様には笑顔で御親切に應對して下さいまして、感謝致しております。

折しも今年は、悟由の十三回忌に当り、東龍寺様との御縁を悟由が私に贈ってくれた最高のプレゼントとなったような気が致します。至る所に細かな配慮と隅々まで手入れされ行き届いた境内。方丈様はじめ御家族の皆様方の温かな想いが伝わって参り、胸が熱くなりました。

歴史ある東龍寺様への旅は、私の生涯に於いて、今までのすべてを包み込んでくれ、至福の時となりました。

由緒ある東龍寺様のさらなる御繁栄と御多幸を祈念し、御礼の御挨拶と致します。

住職より一言

三年ぶりの眼蔵会を行うに当たり、新型コロナウイルス第七波の感染が少しづつ広がりを見せる中、開催を逡巡する私の背中を強く押してくださったのが、梶原さんご夫婦の遠路からの参加でした。その請願に心から、敬意を表し、有り難く感謝申し上げます。

仏の教えを抛り所として、益々、お元気で過ごして下さいませ。お念じております。

法話を聞いて思うこと

新潟市長 沢 瑩 子

田上町仏教会主催の秋の講演会は、毎年必ずかかさず楽しみに聞かせて頂いています。



高田都耶子氏、ご講演の様子 10月9日

修学旅行生の前で、法話をされた」という一コマを知り、あの時の情景がありました。小柄な若いお坊さんから、あふれ出るエネルギー、オーラに包まれ、話に引き込まれ、腹の底からみんなので笑ったことを思い出しました。

今回の講師の高田都耶子先生、どういうお方かも知らず、友達一人を誘って参加しました。なんと、ビックリ、本当に驚きました。元薬師寺の管主・高田好胤師の娘さんでした。

実は、私が仏教の法話が好きになったきっかけは、今から約六十年前(伊勢湾台風が六月にあつた年)高校の修学旅行が、京都・奈良でした。子どもの時から、天理の関係で奈良へは行っていまして、その時はあまり興味もありませんでした。でも、薬師寺で若い小柄なお坊さんのお話を見上げるように初めて聞き、その時から仏教が身近に感じられる様になりました。

私事になりますが、平成十五年、薬師寺大講堂の落慶に、東龍寺様のお誘いで行かせて頂きました。都耶子先生のおっしゃるとおり、寒い日でした。桜が咲いて、きれいな色とりどりの旗が風になびき素晴らしい光景でした。平山郁夫画伯の



薬師寺大講堂落慶法要 平成15年4月3日

「受け取り方で幸せになるという教え」、正しい宗教はあなたがかいと感じました。いつぱいの笑いと共に楽しい時間でした。法話の最後は、「食事の前に唱和してください」と参加者の皆さんで大きな声で二回言って終わりました。言われた言葉は

また、平成十五年の薬師寺大講堂落慶法要参詣の旅では、宿泊場所を探していた折、天理市の天理教北洋教会を紹介してください、格安で泊めてもらったことを思い出します。当時の写真を使わせてもらいました。これからも、笑顔を振りまいて回りを明るくして行って下さい。

玄奘三蔵院大壁画も観られ、私の宝です。高田好胤管主の依頼で平山画伯が引き受け、中国からインドの道を取材で歩き、完成されたとの事、好胤管主は観ることなく亡くなられたとの事、なんとも残念に思います。今回の法話の中で、都耶子先生の父上様の思い出話をされるお声は生き生きとして、心より尊敬されておられることが良く解ります。私も父が大好きでしたから。



興福寺にて 筆者左端 平成15年4月4日

「喜びと感謝と敬いの心をもっていただきます」。楽しい法話をありがとうございました。来年(令和五年)は、一三〇〇年も建ち続けてきた薬師寺東塔の大修理も終わり、コロナ禍で延期されてきたが、四月二十八日には一般公開とのこと、行ってみたいですね。

住職より一言

長沢さんは、東龍寺の檀家ではありませんが、いつも明るく前向きの方で、積極的に参加してください。

この度の講演会では、修学旅行で直接、故高田好胤管主の法話をお聞きした方がおられたらいいなと思っておりましたら、感動ともに、当手を振り返ってくださいました。

【東龍寺年中行事】

- 六月 金毘羅大祭
- 八月一日 うらぼん会 (盆参)
- 八月二四日 水子地藏尊並びに、観音様大祭
- 九月二三日 秋のお彼岸会 (お彼岸の中日)
- 十月十日 常齋米法要
- 十二月三十一日 除夜祭 (除夜の鐘)

【令和四年度事業、行持報告】

- 一月一日 大般若祈禱会
- 一月二日 寺年始 (近隣の檀家)
- 三月二日 寺年始 (遠方の檀家)
- 三月二日 春のお彼岸会 (お彼岸の中日)

一、月に一度、照光殿二階・開山堂、位牌堂の害獣防除を行つている。

一、三月四日 (金) ～ 四月一日 (火)、上水道工事、タンク設置、メーターの移動等並びに、清水フィルター清掃を行った。



上水道工事、タンク設置 3月11日

一、七月七日 (木) ～ 八日 (金) に、三年ぶりに第十九回眼蔵会を行った。ただし、寺での宿泊と飯台は行わず、二泊三日を二日間の通いに変更し、食事も弁当にして行った。

一、七月九日 (土)、十月十七日 (月)、山門脇池の水漏れ箇所を直した。

一、七月十一日 (月)、寺務所床下改修工事並びに本堂へ行く廊下の修理を行った。



寺務所改修工事 7月11日



本堂へ行く廊下 7月11日



「本坪紐」取付 7月23日

一、七月二八日 (木) ～ 二九日 (金)、舗装道路陥没箇所、補修工事を行った。二カ所の内、一カ所は、一級河川に当たり、県が負担。



道路陥没箇所復旧工事 7月28日 (下：県が負担 7月29日)

一、八月二四日 (火)、第四十四回水子地藏・第二十三回聖観世音菩薩大祭を行った。説教と御齋、無。

一、十月九日 (日) 午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、講師に高田都耶子 (華聖) 先生 (元薬師寺管主・故高田好胤老師のお嬢様) をお招きし、三年ぶりに第二十五回秋の講演会を行った。

一、十月二九日 (土) 第十一回湯田上温泉祭り「クラシックコンサート」

が三年ぶりに行われた。田上在住のソプラノ歌手の桑原純子氏、ヴァイオリンの佐々木友子氏、マリリン・パーカッションの倉澤桃子氏のトリオで癒しの時間を過ごした。



第11回温泉祭りコンサート 10月29日

一、十一月二日 (月) ～ 二四日 (木) 雪囲いを設備一式一新し、併せて、本堂屋根破損箇所の修理も行った。



上：本堂屋根破損箇所 7月20日 下：新しい雪囲い設備 2月18日

一、十二月十日 (土) ～ 十一日 (日)、露地庭の松を伐採した。



露地庭の松伐採 12月10日

一、二月二八日 (火) に、新潟県曹洞宗青年会主催の研修会を東龍寺を会場に行った。「瞋恚」をテーマに東龍寺住職が講義をした。東日本大震災物故者慰霊十三回忌法要も行われた。

【寄付御礼】

一、七月二三日 (土)、山崎・小野隆治氏 (写真左) より、自作のフクロウの木彫り置物を寄付頂く。



自作のフクロウの木彫り置物 7月23日

一、八月八日 (月) ～ 十日 (水)、三条市渡邊喜彦氏より、開山堂入口の戸の修理、庫裏の和式トイレを洋式に改修して頂いた。

一、一月二十日 (金) 梅花講新年会の折、講員より、昨年十二月に卒寿を迎えた現住職の母へ長年に渡る梅花指導に対して、感謝の意の記念品が贈られた。



梅花講新年会で母へ記念品目録贈呈 1月20日

一、三月四日 (土)、湯田学氏 (湯田豊店当主) より、葬儀会場用の拝敷



上：東日本大震災慰霊法要 2月28日 下：講義の様子 2月28日

【参禅の報告】

一、三月十日(木)、「日報メディアシップで坐禅に親しむ」の会員七名、坐禅二炷 お斎無し。

一、六月二三日(木) 田上小学校三年生、親子坐禅。児童三七名・保護者三五名・教員四名。コロナ感染予防の為、田上小学校体育館で、初めて行った。

一、七月一日(金)、昨年に引き続き上越市立保倉小学校六年生(児童十五名、教員三名)修学旅行の中で参禅。一、八月二六日(金)夜、羽生田四区子供会。小学生十名、保護者七名。



上:上越市保倉小学校6年生坐禅 7月1日
下:羽生田4区親子坐禅 8月26日

一、九月十五日(木)、「日報メディアシップで坐禅に親しむ」の会員八名(全員)、坐禅二炷。お斎中止。



日報メディアシップ坐禅 9月15日

一、十二月十六日(金)〜十八日(日)、「和光ベンディング断食無言行」研修。九名。二泊三日、水以外は口にせず、熱心に研修をされた。朝の坐禅・朝課・作務(掃除)も行った。



和光ベンディング 上:住職の法話 12月17日
下:研修を終えて 12月18日

一、二月二五日(土)朝、ホテル小柳社長の長女・野澤海乃氏一行五名(内二人は、オーストラリアからの留学生)が、参禅並びに朝のお勤め。



上:坐禅の様子 2月25日
下:朝課でのお拝 2月25日

【令和五年度事業、行持案内】

一、六月二九日(木)〜三十日(金)に、駒沢大学教授角田泰隆老師を講師にお招きし、第二十回眼蔵会を講本「行持の巻(六回目)」で、開催を予定している。
一、十月七日(土)午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、講師に新津市観音寺住職阿部正機老師をお招きし、第二十六回秋の講演会を予定している。

【月例加茂法話会】

一、毎月一回、夜、加茂市中央コミュニティセンターを貸り、僧侶十名(三名ずつ担当)による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。

三月より、新たに上越市久昌寺住職保坂文哉師が法話者に加る。

【月例坐禅会の御案内】

一、月例坐禅会を毎月第二土曜日 夜七時半より行っています。お気軽にご参加ください。

【梅花講のお知らせ】

一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習をおこなっています。お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。



梅花流発足70年記念の表彰状を頂いて 8月22日

曹洞宗心の電話

TEL 0120-508-740
携帯電話 03-3454-5410

こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、3分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話の流れます。24時間いつでも繋がりますので、是非、お聞きください。

永平寺電話説法

TEL 0776-63-3399

役寮が、10日ごとに代わって、3〜5分の法話をこなっています。

【お盆・棚経の日程】

一、今年はお盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解とご協力の程、お願いいたします。

【お盆前】

新潟・亀田・三条・巻・燕・白根

【十三日住職】

新潟・中山・赤渋・笠巻・三ツ屋・三枚瀧・市ノ瀬・覚路津

【お盆中住職】

十四日 本田上
十五日 上野
十六日 加茂地区

【光明寺様】

十四日 川之下・原ヶ崎・下吉田
十五日 鎌倉・新保・龍玄・鳴・庄瀬・石田新田・後藤・曾根・横場

十六日 羽生田・川船河

【少林寺様、若様】

十四日 湯川・谷・中店・山崎・山田・湯古屋

尚、当日多少の変更が出る場合もあるかもしれませんが、ご容赦ください。

編集後記

寺報三十五号を発刊するに当たり、久保尚之師・富田雅実師・梶原恵都子氏・長沢瑩子氏より、ご寄稿を賜り有難うございました。今後も皆様のご寄稿をお待ちしております。

お陰様で、令和四年度は、眼蔵会と秋の講演会を三年ぶりに行うことができました。まだ、寺で作ったお斎や宿泊は、難しいですが、五年度も諸行持を行う予定です。

国の内外が、不安定な状況ではありますが、少しでも仏法の光を照らして行きたいと念じております。

住職 合掌